Powered BLUE 333 サーバー

ー 導入ガイド ー

Version 1.3.1

Turbolinux、ターボリナックスの名称およびロゴはターボリナックス株式会社の商標または登録商標です。Linux は Linus Torvalds 氏の米国および他の国における商標です。UNIX は The Open Group の米国および他の国における登録商標です。Sun、SunMicrosystems、Java、JavaScript、Sun Cobalt、Sun Cobalt 、Sun Cobalt Qube は SunMicrosystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本ガイドでは、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承くださいますようお願い申し上げます。

目次

1. はじめに 4

2. 管理画面へのアクセスと初期設定 5

2.1. ＬＡＮインターフェースについて 5

2.2. 電源投入から初期設定までの手順 6

3. 製品のアップデート 15

3.1. アップデートについて 15

3.2. アップデート方法 15

3.3. インストールについて 18

4. 拡張機能 19

4.1. 拡張機能について 19

4.2. シリアルコンソール 20

4.3. ハードウェアモニタ 22

4.4. 電子メール拡張 25

4.5. アドバンスド管理 26

5. 管理画面の外観（スタイル）について 29

6. LCDコントロールパネルの操作方法 30

6.1. LCDコントロールパネルの機能 30

6.2. コントロール・ボタン 30

6.3. ネットワークの設定 31

6.4. 電源機能（再起動と停止） 32

6.5. パスワードのリセット 33

1. はじめに

・ このドキュメントは、とくに最初に Powered BLUE 333 サーバーを導入するにあたっての、簡単な初期設定方法や、セキュリティーパッチのアップデート、LCD コントロールパネルの操作方法といった基本的な内容を解説します。

・ Powered BLUE 333 サーバーは、OS に「Turbolinux Applience Server 1.0 Workgroup Edition」を採用し、Open Source Cobalt ベースのユーザインタフェースを搭載した保守性に非常に優れた製品です。アップデートは、Turbopkg と呼ばれるパッケージ管理ツールで管理画面から容易に行うことができます。

・ また、Turbolinux の機能とは別に、シリアルコンソールやシステムの温度や冷却ファンの監視といった、ハードウェア由来の Powered BLUE 333 専用の拡張機能が実装されています。

・ Powered BLUE 333 サーバーは、従来からのコバルトユーザーを意識しており、LCD コントロールパネルや管理画面を違和感なく使えるように、カスタマイズされています。

・ Powered BLUE 333 サーバーは２つのネットワークインタフェースを持っています。特にプライマリ・インタフェースについては、サーバ前面の LCD コントロールパネルを操作して IP アドレスを設定することができるため、初期設定も楽に行えます。

・ 実際のサービスの設定や操作方法については、「Turbolinux Applience Server 1.0 Workgroup Edition 操作ガイド」(以下、操作ガイド)をご参照ください。

2. 管理画面へのアクセスと初期設定

2.1. ＬＡＮインターフェースについて

サーバーは２つのネットワーク・インタフェースを背面に装備しています。

○ プライマリ・インタフェース（LAN1）は、LAN 環境からアクセスするための主要なインタフェースです。プライマリ・インタフェースは、既定値として、192.168.0.1/255.255.255.0 のネットワークが割り当てられています。プライマリ・インタフェースは、LCD コントロールパネルで設定することができます。

○ セカンダリ・インタフェース(LAN2)は、インターネットへ接続するために利用し、通常グローバル IP が割り当てられます。DNS・MAIL・WEB 等のサービスを公開する場合は、セカンダリ・インタフェースを使用します。

Powered BLUE 333 サーバーの管理画面へは、どちらのインタフェースを使用しても、アクセスすることができます。次項では、Powered BLUE 333 サーバーのプライマリ・インタフェースを使用した一般的な設定方法を紹介します。

※ Powered BLUE 333 サーバー は、PCI 拡張スロットに LAN カードを増設することができます。この場合、増設したインタフェースがプライマリ・インタフェースになり、LAN1 がセカンダリ・インタフェースになります。LAN2 が、DMZ（予備インタフェース）に割り当てられます。

2.2. 電源投入から初期設定までの手順

① **電源の投入**

ネットワークをプライマリ・インタフェースと接続し、サーバの電源を投入します。サーバの主電源スイッチは背面にあります。前面にはソフトスイッチである電源ボタンがあります。主電源のスイッチが ON の場合は、前面の電源ボタンを押すと電源が投入されます。

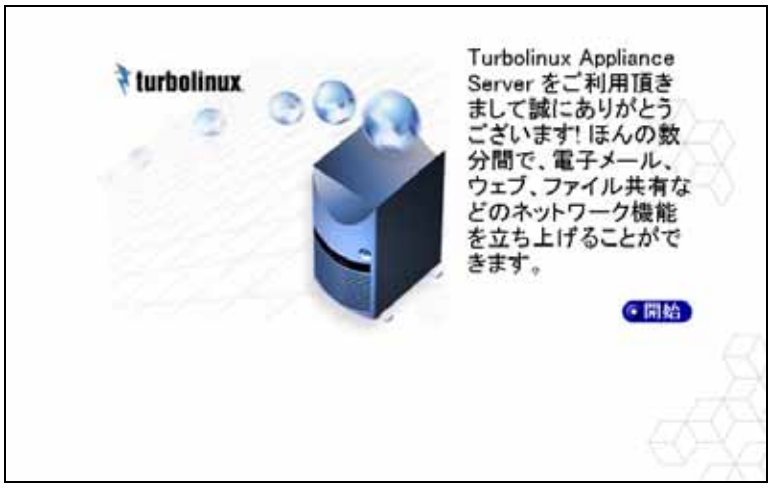
② **LCD で IP を設定**

サーバーの起動後、LCD コントロールパネルを使って、プライマリ・インタフェースのネットワークを設定します。液晶パネルの選択ボタン Ⓢ で、「Network Setup」を選び、決定ボタン Ⓒ で決定してください。プライマリ IP アドレスの入力画面になります。４つの矢印ボタン ▶ ◀ ▲ ▼ を操作して IP アドレスを入力し、入力が終ったら、Ⓒ で決定します。同様に、ネットマスクとゲートウェイを設定します。

③ **ウェブブラウザから、セットアップウィザードへアクセスする**

ウェブブラウザで、設定したプライマリインタフェースへアクセスします。

例）http://192.168.100.200/

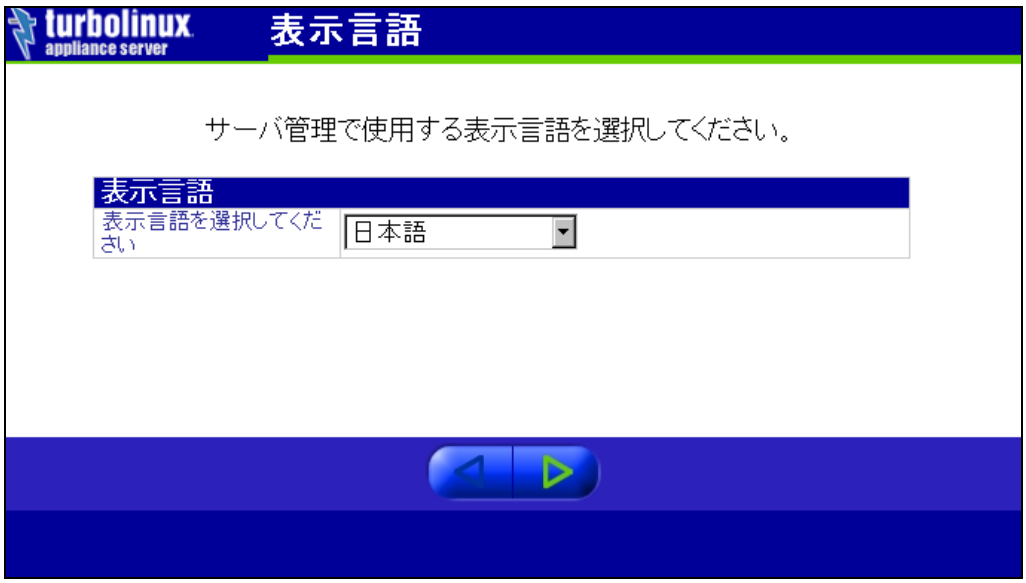


（http://192.168.100.200:444/base/wizard/start）

※ウェブブラウザのポップアップ広告抑止機能が有効になっているとセットアップウィザードが起動しない場合があります。セットアップウィザードが表示されない場合は設定を無効にしてください。

④ **セットアップウィザードの開始**

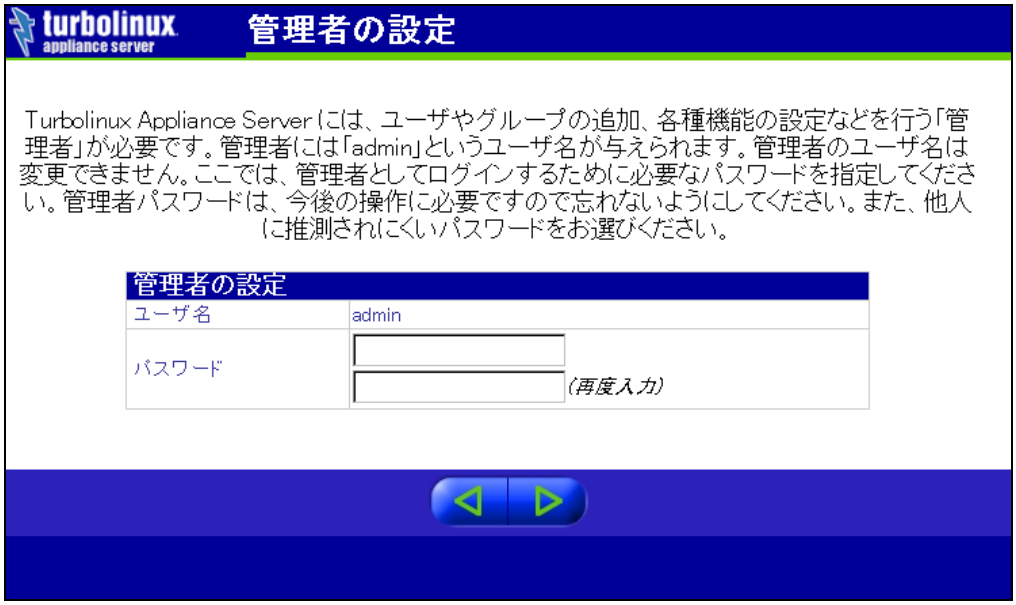
セットアップウィザードを起動すると、初期設定のための設定画面が表示されます。
各設定画面の詳細な説明については、「操作ガイド」をご参照ください。



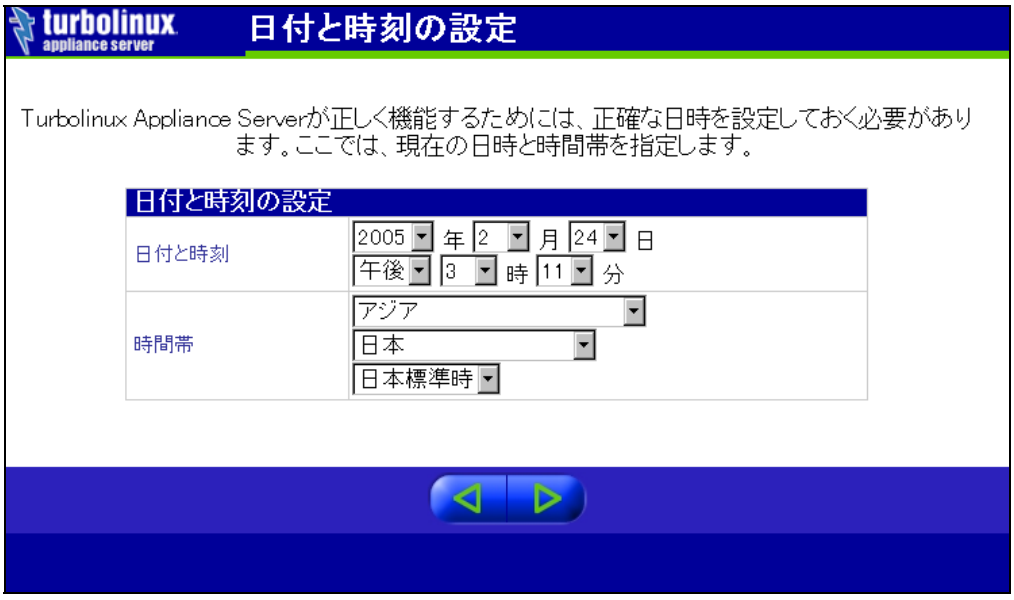
最初のメニューは admin 管理ユーザの表示言語の設定を行います。

⑤ ソフトウェア使用許諾契約の条件を確認し同意します。

⑥ 管理者の設定画面で admin のパスワードを設定します。

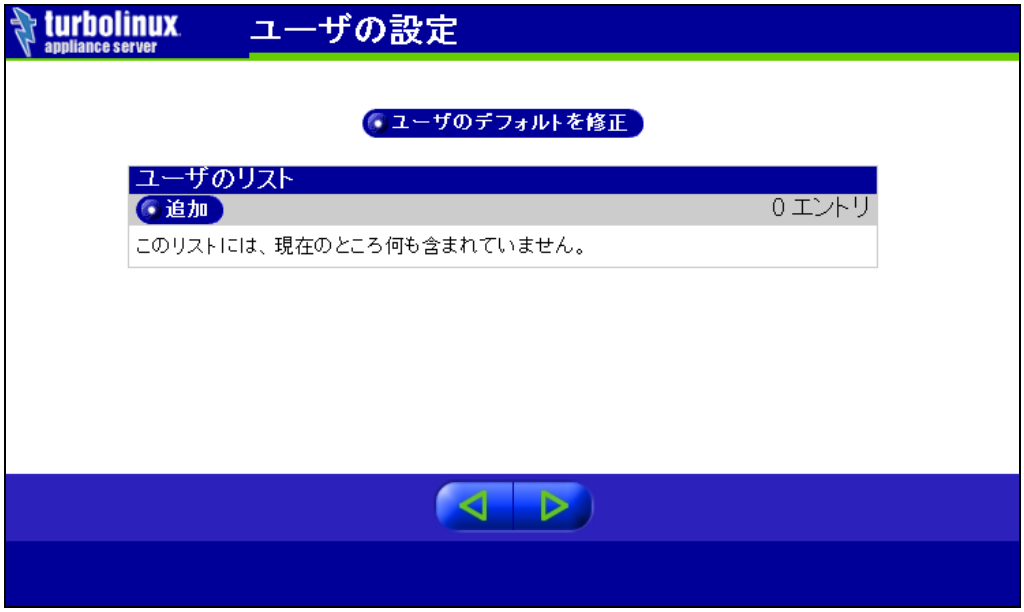


⑦ 日付と時刻の設定を行います。



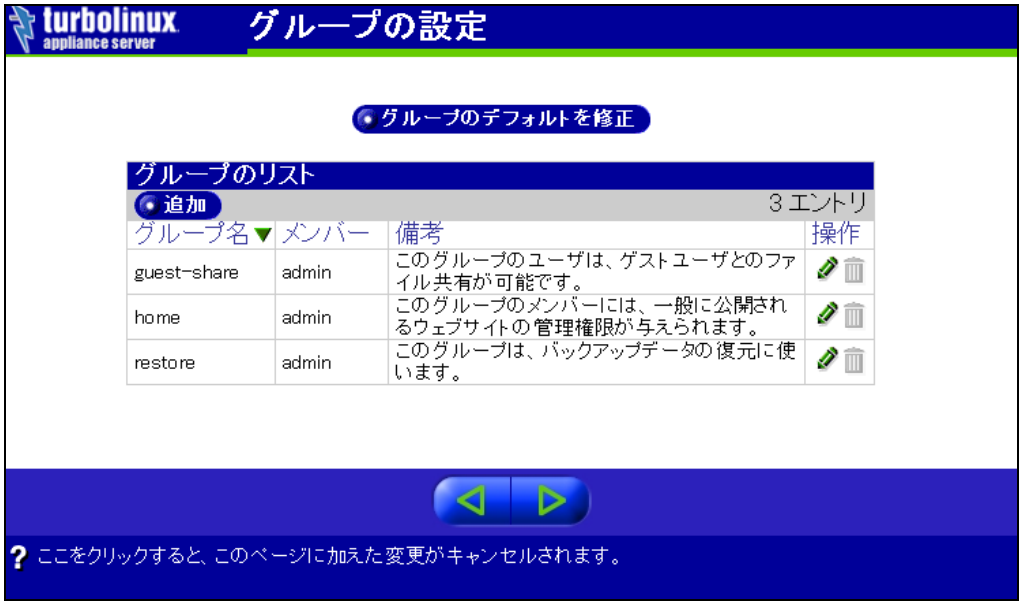
⑧ ユーザの設定

ユーザのデフォルトの最大許容ディスク容量の設定や、ユーザの追加を行うことができます。ユーザは後からでも管理画面で追加することができます。



⑨ グループの設定

グループのデフォルトの最大許容ディスク容量の設定や、グループへのユーザの追加、グループの作成を行うことができます。グループは後からでも管理画面で追加することができます。



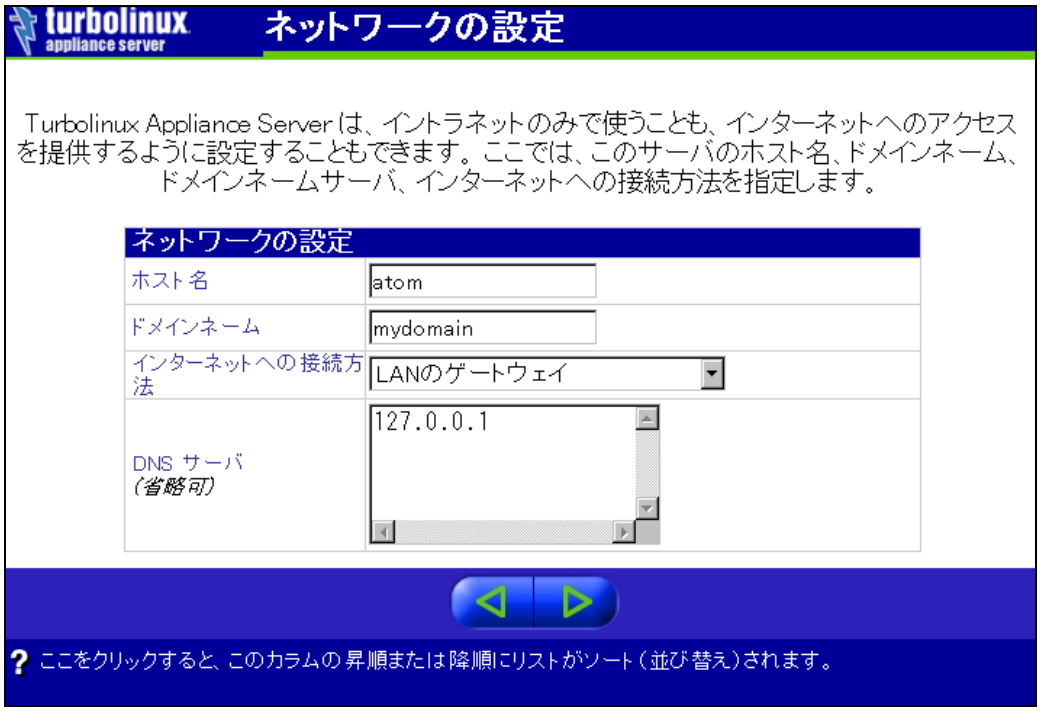
グループは、複数のユーザで構成されます。Turbolinux Appliance Server 上のユーザは、

グループと呼ばれる単位で管理することができます。グループのメンバーとして登録されたユーザは、Turbolinux Appliance Server が提供する各種サービスを、グループに所属するユーザ間で共有できるようになります。たとえば、グループごとのメーリングリストやウェブサイト公開、グループ単位でのファイル共有などが可能になります。

⑩ ネットワークの設定

ネットワークの設定

ホスト名、ドメイン名、インターネットへの接続方法、DNS サーバを設定します。

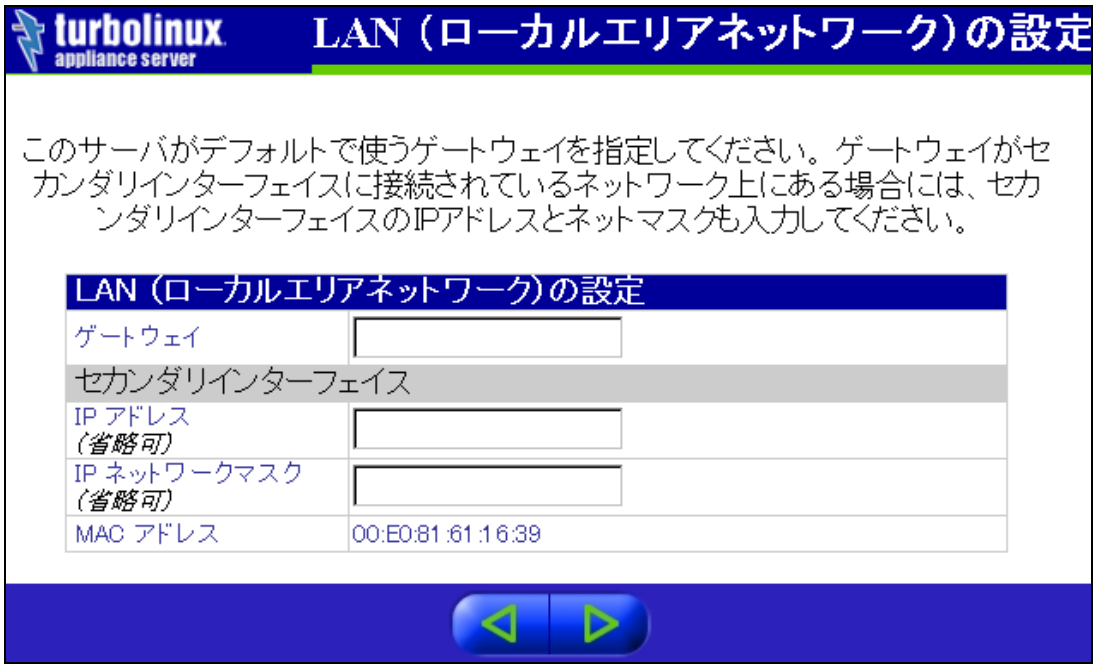


インターネットへの接続方法は次の４つが選択できます。選択項目により次の設定メニューが異なります。

接続方法	設定項目（次メニュー）
接続しない	インターネットの接続方法は設定しません。
LAN のゲートウェイ	既存のゲートウェイを指定します。
ケーブルモデムまたは DSL	現在主流のブロードバンド（光ケーブルや ADSL など）で接続する場合に選択します。セカンダリインタフェースを使用してインターネットと接続します。PPPoE や DHCP を使って、プロバイダと直接インターネット接続を確立することができます。あるいは、上位に既にルータが導入されている場合は、割り振られたグローバル IP をセカンダリ・インターフェースに設定します。
アナログモデムまたは ISDN	シリアルポートを介して、アナログモデムや ISDN モデムを利用する場合に選択します。詳しくは、「操作ガイド」をご参照ください。

LAN のゲートウェイ

LAN 上の既存のゲートウェイを指定する場合や、既にインターネットへ接続しているルータをゲートウェイとして設定します。

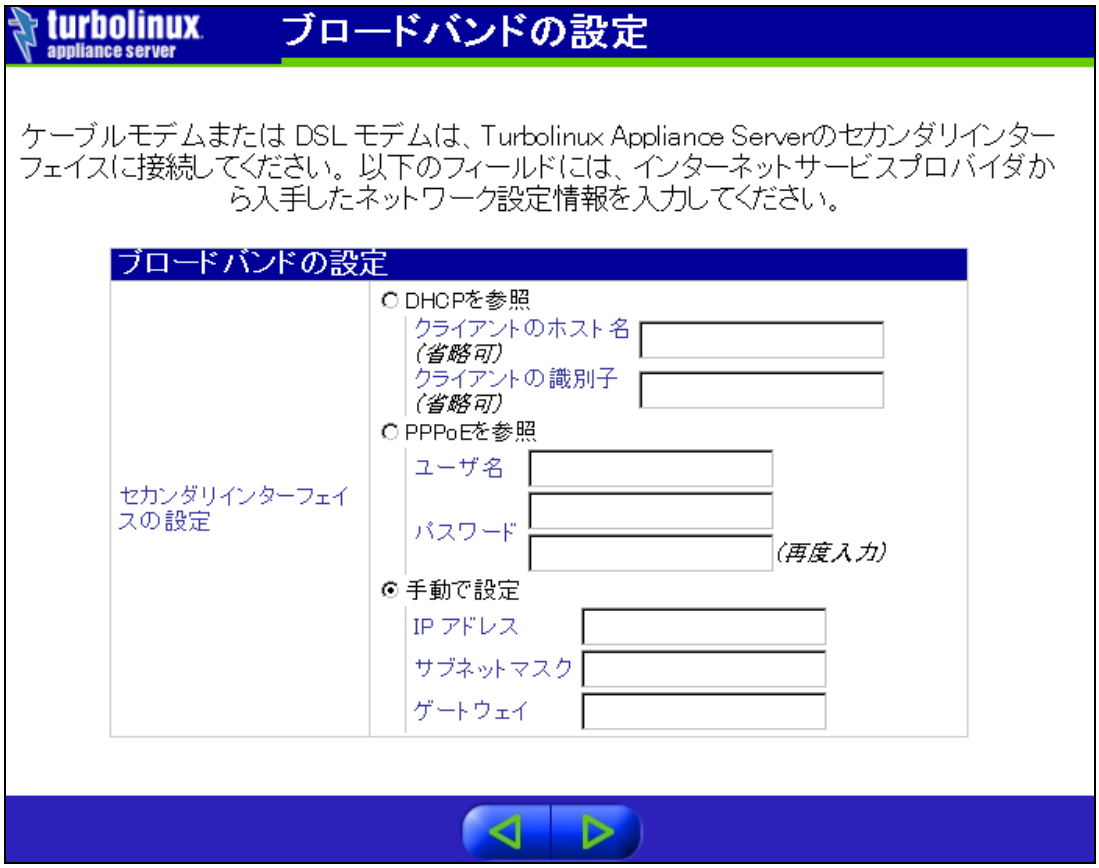


サーバを LAN 内に設置する場合は、デフォルト・ゲートウェイを指定します。

また、ゲートウェイがセカンダリ・インタフェース上にある場合、例えば、本サーバーを NAT 装置として設置した場合は、セカンダリ・インタフェースを設定し、WAN 側のルータをゲートウェイとして指定します。

本サーバをインターネットのゲートウェイとして設置する場合、LAN 内のクライアントがインターネットへのアクセスを可能にするため、セカンダリ・インターフェースの「 IP パケット転送とマスカレード」が選択されます。

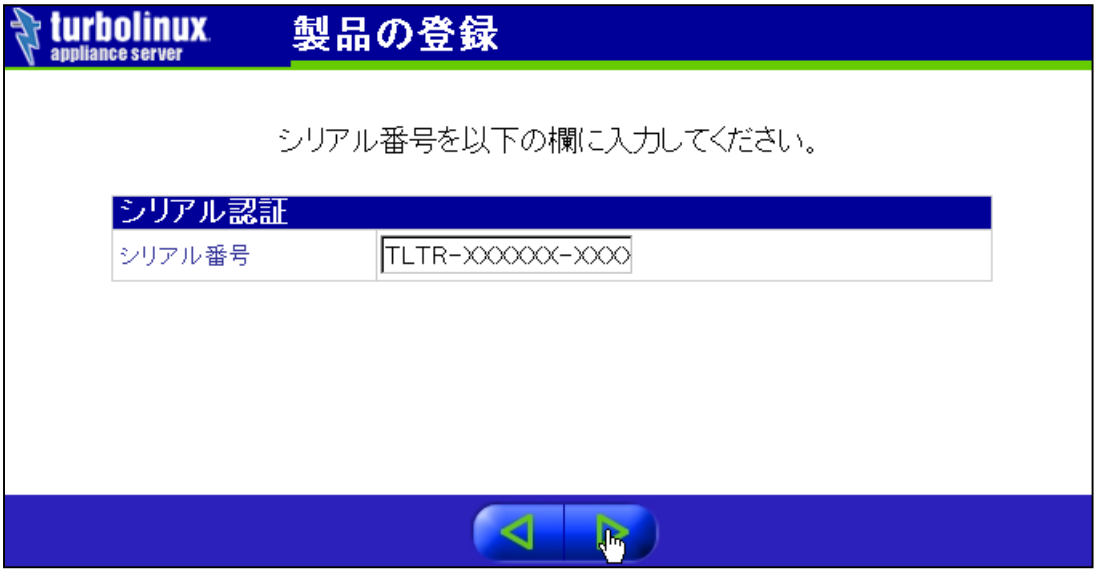
ケーブルモデムまたは DSL

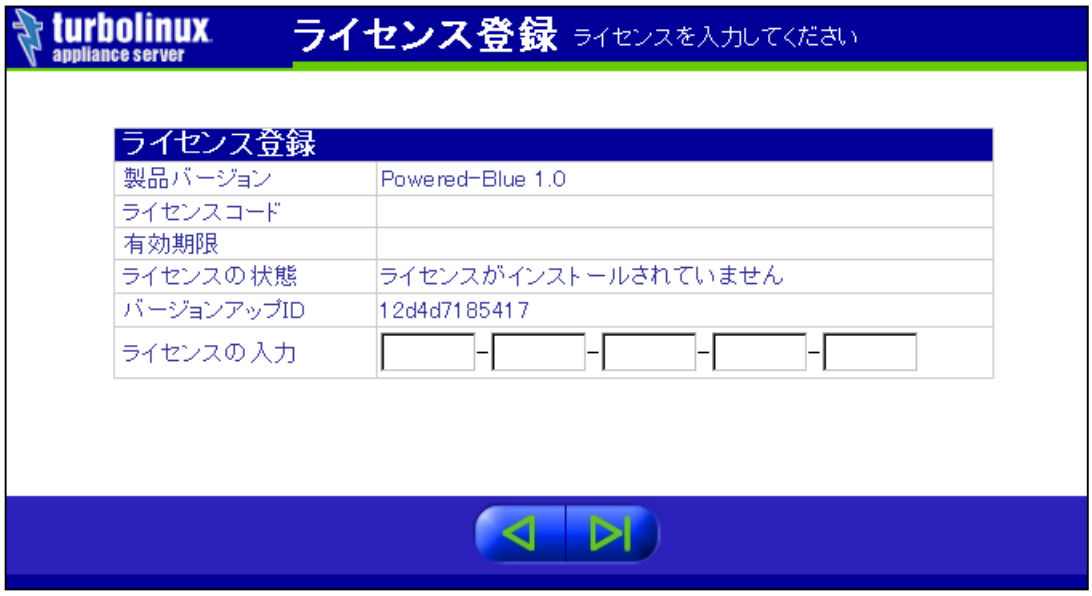


本サーバのセカンダリ・インタフェースを使用し、インターネットと接続します。「DHCP」あるいは「PPPoE」は、常時接続サービスでよく用いられるプロバイダとの接続方法です。プロバイダから固定 IP が割り当てられる場合は、「手動で設定」で割り当てられた IP アドレスとネットワークを設定します。

⑪ **製品の登録**

最後に、シリアル番号とライセンスの入力画面になりますので、ライセンス証書に表記されているコードを入力してください。





ライセンス登録画面は、操作ガイドでは記載されていません。
通常、ライセンスは出荷時にインストールされています。

⑫ 初期設定の終了

初期設定が終了すると、管理画面が表示されます。

3. 製品のアップデート

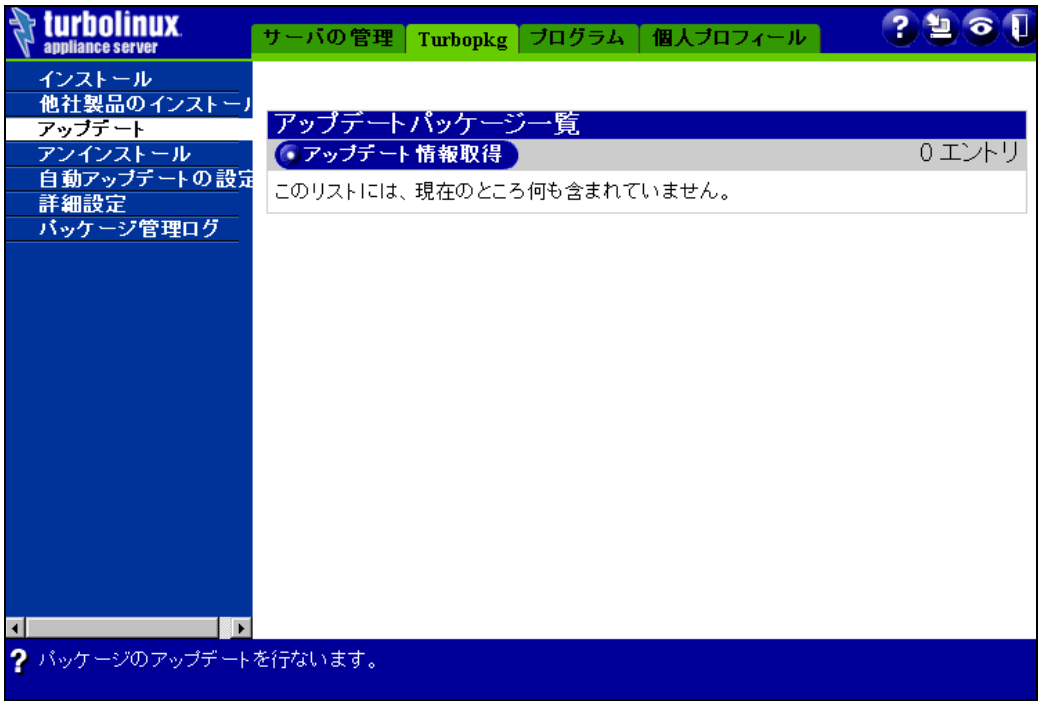
3.1. アップデートについて

アップデートは、セキュリティー強化あるいはバグフィックスのために、サーバーにインストールされているパッケージを更新する機能です。アップデートはターボリナックスのパッケージ管理ツール Turbopkg で行います。Turbopkg は、ターボリナックス社のダウンロードサイトへ接続し、更新情報を取得します。

製品導入時にアップデートを行うことを推奨いたします。

3.2. アップデート方法

① 「Turbopkg」タブメニューの「(パッケージ) アップデート」を表示します。



アップデート情報取得 ボタンを度押して、アップデート可能なリストを取得します。

更新可能なアップデートがあれば、下記のようにリストが表示されます。

② アップデートするパッケージを選択します。

アップデート ボタンを押して、アップデートを実行します。ダウンロードするパッケージの量により、数分以上の時間を要する場合があります。

※　更新パッケージによってはシステムの再起動の必要なものがあります。特にカーネルパッケージ(kernel-2.4.X)では再起動が必要になります。更新結果については、管理者のメール宛に通知されます。

アップデートが終了したら、アップデート情報取得 を押して、他に更新可能なリストがないか再度確認してください。リストがあれば再度更新します。

3.3. インストールについて

「インストール」メニューは、標準システムではインストールされていない開発環境などの新規パッケージをインストールする機能であり、セキュリティアップデートとは異なります。不要なパッケージのインストールはセキュリティの低下やディスク容量の不要な消費を発生させますので、本当に必要なパッケージのみインストールするようにしてください。

4. 拡張機能

4.1. 拡張機能について

Powered BLUE サーバーは、ターボリナックスには含まれていない、ハードウェア由来のいくつかの拡張機能を実装しています。

- **シリアルコンソール**
  シリアルコンソールは、ＣＲＴモニタやキーボードが無い場所で、ノートブック PC 等を使ってコンソールを表示したり、直接ログインする機能を提供します。

- **ハードウェアモニタ**
  ハードウェアモニタは、温度、冷却ファン、電源、ＲＡＩＤの状態を監視する機能で、アクティブモニタの監視対象となるコンポーネントとして追加されます。

- **電子メール拡張**
  SSL で保護された SMTP、POP、IMAP（STARTTLS,POP3S,IMAPS）を利用することができます。

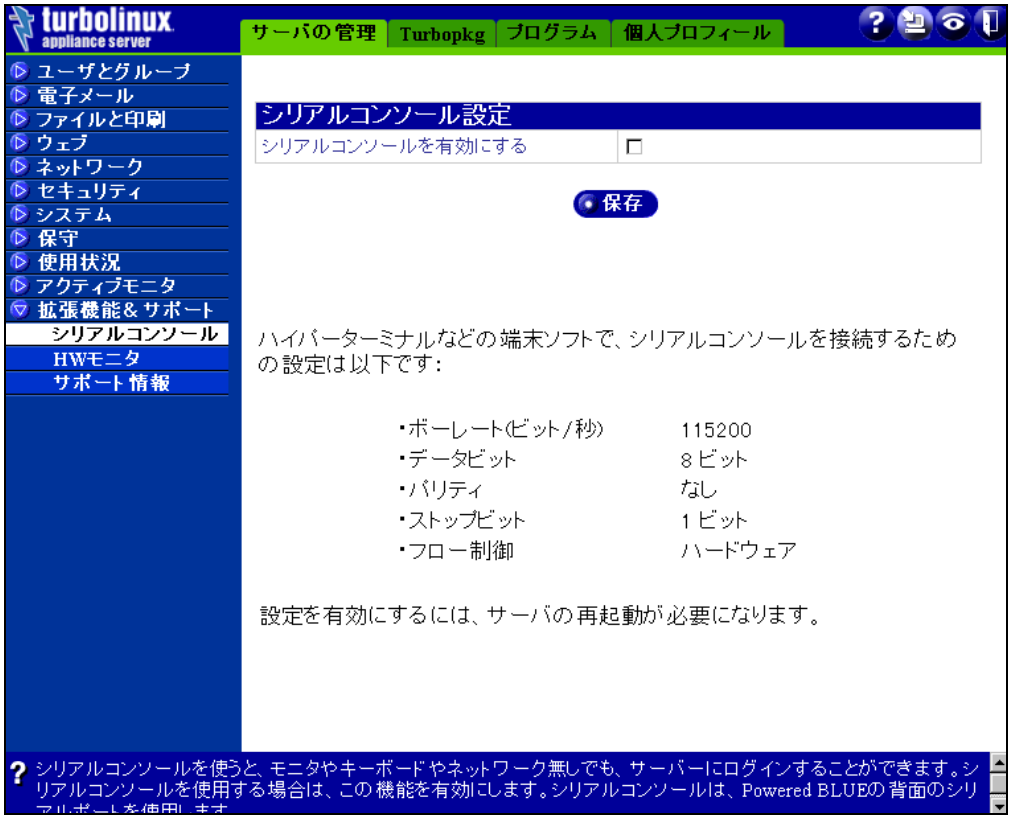
- **アドバンスド管理**
  Syslog に関する転送設定やサーバ設定およびログ収集の状況を表示します。

4.2. シリアルコンソール

シリアルコンソールは、CRT モニタが持ち込みにくい場所で、コンソールを出力させる最もポピュラーな方法です。サーバーと PC の接続は、シリアルケーブル（クロス）で接続します。

Powered BLUE のシリアルポートは、下図が示すコネクタ(Dsub-9pin)です。

シリアルコンソールを有効にするには、管理画面の「サーバの管理」→「拡張機能＆サポート」→「シリアルコンソール」メニューで、設定します。

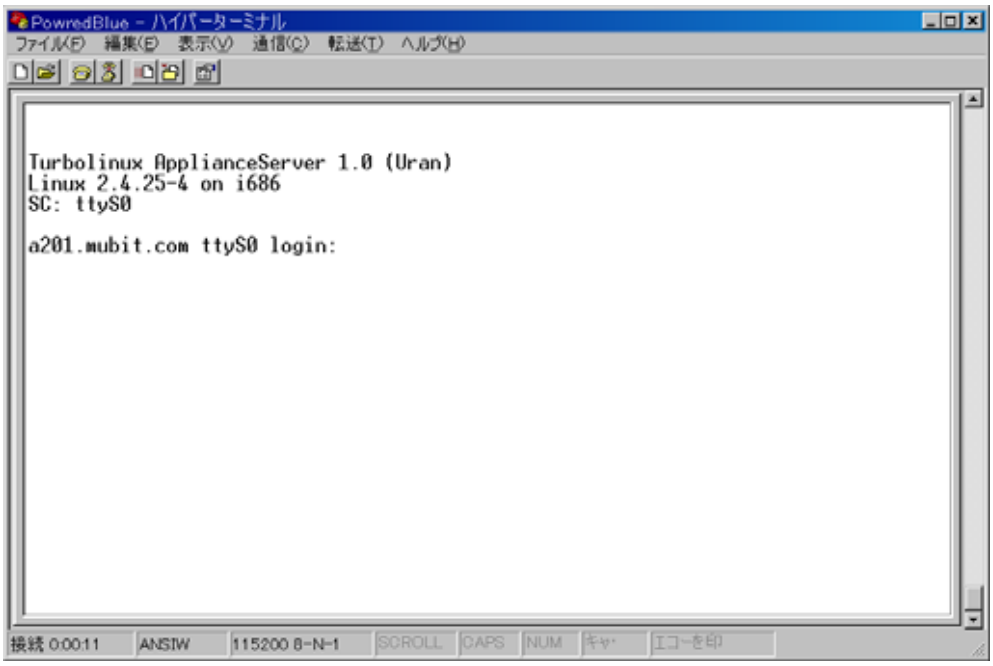


設定を有効にするには、サーバーの再起動が必要となります。

PC 側の端末ソフト(ハイパーターミナル、TeraTerm 等)の接続設定は、下表で示します。

設定項目	設定値
ボーレート（ビット/秒）	115200
データビット	8 ビット
パリティ	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	ハードウェア

下図は、Windows のハイパーターミナルを用いて、ログインプロンプトを表示した例です。

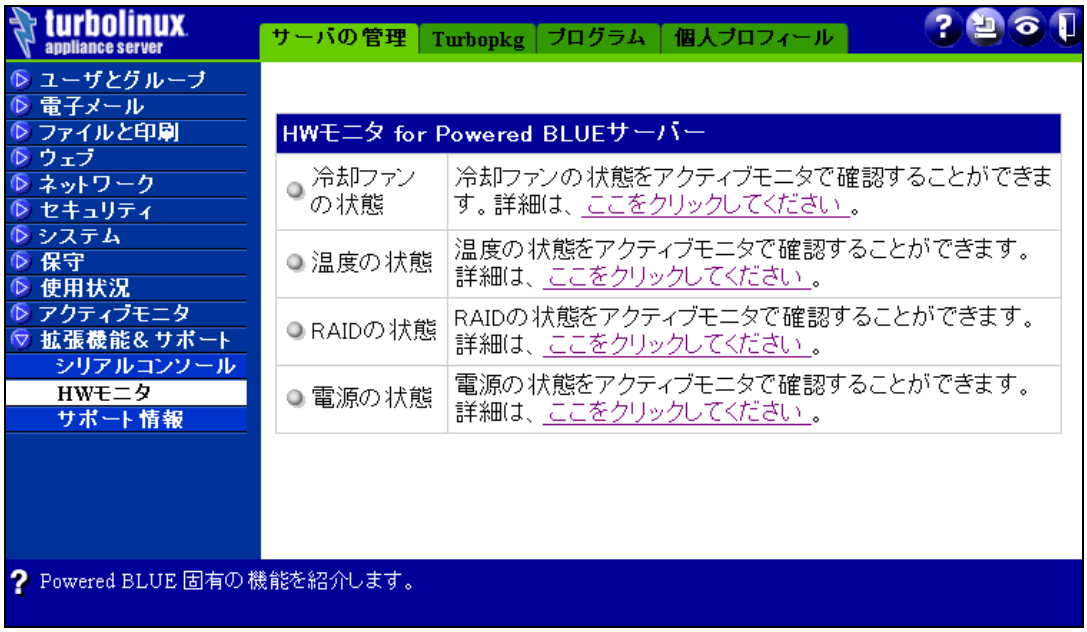


4.3. ハードウェアモニタ

ハードウェアモニタは、アクティブモニタ機能の監視対象のコンポーネントとして実装されます。アクティブモニタは、システムやサービスの状態を監視し、異常を検出する機能です。

状態の変化や異常が検出されると、管理者へメールで通知します。

下図は、ハードウェアを監視するコンポーネントのリストで、リンク先はアクティブモニタの各コンポーネントの詳細ページです。

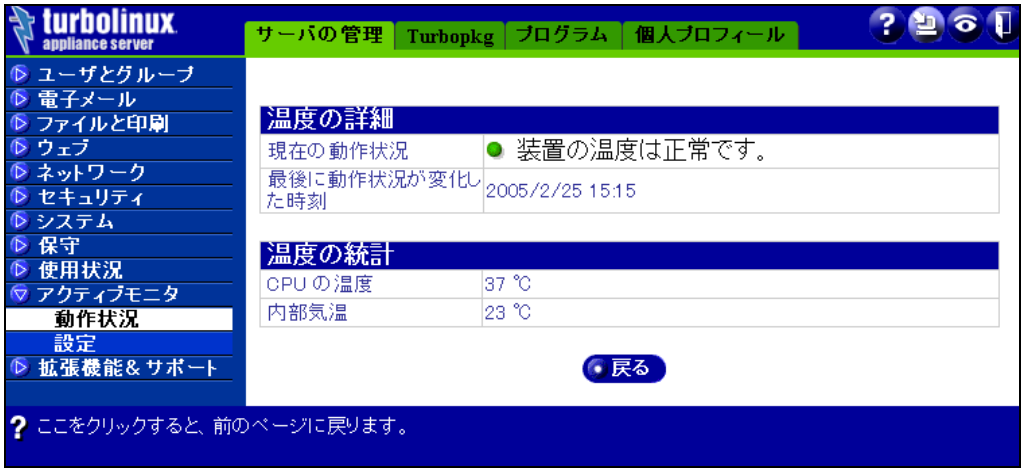


- 冷却ファンの状態

  CPU ならびにシステム冷却ファンの状態をモニターします。CPU ファンの回転速度が著しく低下した場合は、システム保護のため強制的にシステムをシャットダウンします。

- 温度の状態

  CPU とシステムの温度の状態を監視します。

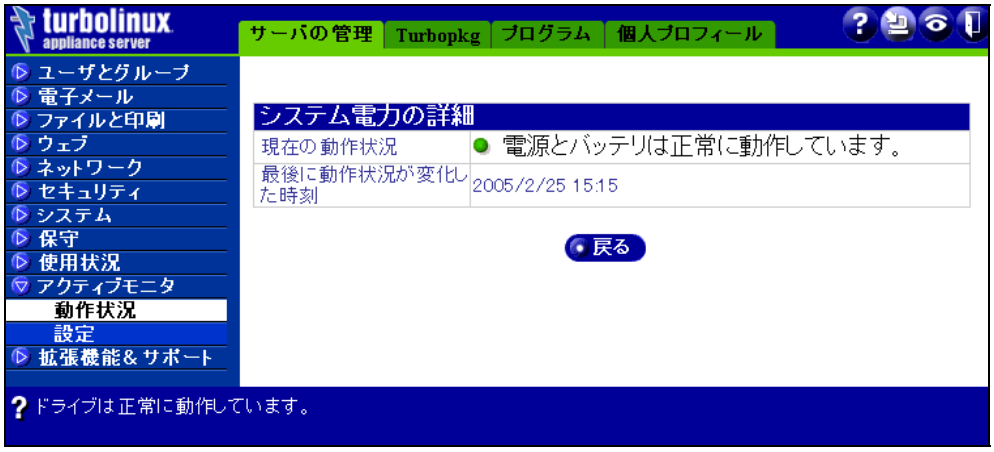


- RAID の状態

  ディスクに異常が見つかると、レイアウト中で異常ディスクを示します。

- 電源の状態

  CPU のコア電圧や電源電圧を監視します。



4.4. 電子メール拡張

電子メール拡張は、電子メールの通信経路を暗号化し保護する次の機能を有効にするためのインターフェースを提供します。

- STARTTLS(SMTP を SSL で保護する)
- POP3S(POP3 を SSL で保護する)
- IMAPS(IMAP を SSL で保護する)

また、リレー等の設定容易を容易にするために、メール配信設定(mailertable)も追加しました。

使用方法に関する情報は、「ヘルプ」ボタンのリンク先の弊社サイトで提供いたします。

4.5. アドバンスド管理

ログの管理に関する詳細な機能を提供します。

4.5.1. Syslog 転送

Syslog の転送設定を行います。転送先ホストは転送先の Syslog サーバを指定します。転送したいログをチェックします。

ローカルファイル名と Facility/Priority は現在の Syslog の設定を表示しています。転送設定後もローカルファイルへのロギングは継続されます。

4.5.2. Syslog サーバー

本アプライアンスサーバーを Syslog サーバとして利用する場合に選択できます。Syslog サーバーにする場合は、「Syslog サーバー」の項目のチェックを有効にします。「/home/へのロギング変更」の項目をチェックすると、ログの保存先を /var/log/ ディレクトリから、よりディスク容量の大きい /home/log/ ディレクトリに変更できます。

Syslog サーバー設定	
Syslogサーバー	☐
/home/へロギング変更	☐
現在の設定	/var/log/messages /var/log/secure /var/log/maillog /var/log/boot.log
説　明	転送されたログを受信可能にするために、ファイアウォールは514番のUDPポートを通過可能にしておく必要があります。また、将来のsyslogd関連パッケージのアップデートにより、当設定(/etc/syslog.conf)が上書きされない保証はありません。

保存

現在の設定の項目は、現在設定されている Syslog の出力先のファイルのパスを表示しています。

Syslog の受信は 514 番の UDP ポートが利用されます。ファイアウォールが設定されている場合はこのポートを受信可能にする必要があります。

4.5.3. ログローテーション

ログローテーションの現在の状況を表示します。

ログローテーション情報

4 エントリ

ログファイル	ローテーション間隔	回数	編集
/var/log/maillog	weekly	4	
/var/log/messages	weekly	4	
/var/log/secure	weekly	4	
/var/log/boot.log	weekly	4	

アイコンをクリックすると詳細情報が表示されます。ログファイル名とローテーションが行われる間隔とローテーション回数が表示されます。ログの保存情報は、ローテーション中のログファイルのリストを表示します。

ログローテーションの詳細と変更

ログファイル名	/var/log/maillog
ローテーション間隔	weekly
ローテーション回数	4
ログの保存情報	2005-10-19 maillog [233K] 2005-10-12 maillog.1.gz [20K] 2005-10-05 maillog.2.gz [20K]
設定の変更	
変更方法	◉ デフォルト(既定値)に戻す ○ 設定の変更 ローテーション間隔 weekly ローテーション回数 4 (1 － 52)
説　明	ログローテーションの設定を変更する場合は、そのログファイルが置かれるパーティションのディスクの空き容量に十分注意する必要があります。ディスクが一杯になるとシステムに重大な障害を引き起こす原因になります。また、この設定変更は将来このログファイルに関連するパッケージが更新された場合に上書きされる可能性があります。

変更する　キャンセル

設定の変更では、現在設定されているローテーションの間隔や回数を変更できます。ただし、この場合ログが保存されるパーティションのディスクの空き容量に十分配慮する必要があります。ディスクが一杯になると重大な障害を引き起こす原因となりますので安易な設定変更は行わないでください。

5. 管理画面の外観（スタイル）について

管理インターフェースの外観には 2 つのスタイル「**True Blue**」と「**Merlot**」が用意されています。好みによって選択できます。スタイルの違いによって、メニュー構成や機能は全くかわりません。

True Blue スタイル

Merlot スタイル

スタイルの切換えは、個人プロフィール・タブメニューのアカウント情報で設定することができます。

本サーバの既定スタイルは「True Blue」です。操作ガイドに掲載されている管理画面のスタイルは「Merlot」を使っています。

6. LCD コントロールパネルの操作方法

6.1. LCD コントロールパネルの機能

LCD コントロールパネルは、液晶表示器と６つのコントロール・ボタンで構成されます。コントロール・ボタンを使って、次の機能を使用できます。

① ネットワーク設定
プライマリ・インタフェースの設定を、管理画面にアクセスすることなく、簡単にボタンで設定できます。

② 電源機能
システムの再起動(REBOOT)、または、停止（パワーダウン）することができます。

③ パスワードのリセット
パスワードが不明になり管理画面にアクセスできなくなってしまった場合、LCD コントロールパネルでパスワードを初期化することができます。

6.2. コントロール・ボタン

６つのコントロール・ボタンは、次の役割を持っています。

・ 切換ボタン　Ⓢ
主メニューの切換および選択の切換を行います。

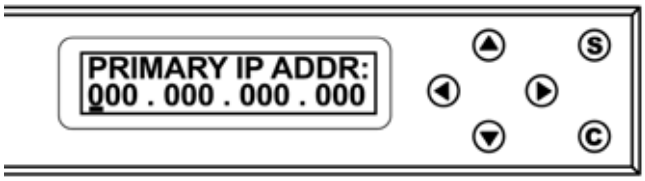
・ 決定ボタン　Ⓒ
選択された操作を決定するためのボタンです。

・ 方向ボタン　▶ ◀ ▲ ▼
選択の切換や、数値入力においては数値の増減と桁の移動を行います。

6.3. ネットワークの設定

Ⓢ を押して、「Network Setup」メニューを表示します。

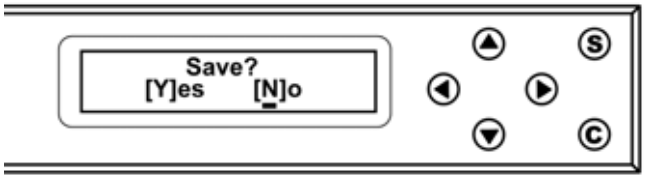
ここで Ⓒ を押すと、「Network Setup」が選択されたことになり、プライマリ IP アドレスの入力画面に切り替わります。



▲ ▼ でカーソルが位置する桁の数値を増減させることができます。▶ ◀ で入力桁を移動します。これらの操作を行い、IP アドレスを入力してください。入力が終了したら、Ⓒ を押して決定します。

次に、ネットマスクの入力画面が表示されますので、IP アドレスと同様に入力してください。入力が終了したら、Ⓒ を押して決定します。

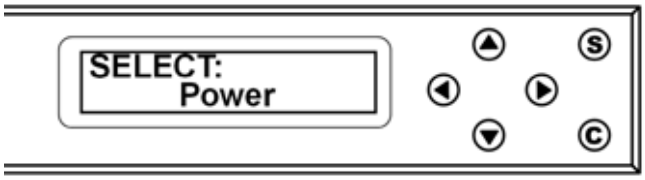
次に、ゲートウェイの入力画面が表示されますので、同様に入力し、入力が完了したら Ⓒ を押して決定します。



最後に、いままで入力したネットワークインタフェースのパラメータを保存・適用するか確認してきます。保存する場合は、▶ ◀ キーでカーソルを[Y]に移動してから、Ⓒ を押してください。キャンセルする場合は、[N]にカーソルを移動してから Ⓒ を押してください。

6.4. 電源機能（再起動と停止）

Ⓢ を押して、「Power」メニューを表示します。

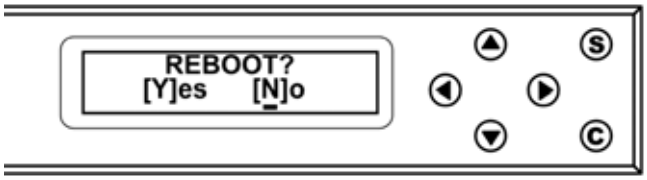


ここで Ⓒ を押すと、「Power」が選択されたことになり、再起動(REBOOT)選択画面になります。

再起動する場合は、Ⓒ を押します。再起動ではなく停止（パワーダウン）を選択する場合は、Ⓢ を押して、メニューを切換えてください。

↓↑ **Ⓢ ボタンで、再起動(REBOOT)と停止(PowerDown)が交互に切り替わる**

再起動、停止のいずれかを選択し、Ⓒ を押すと確認画面が表示されますので、実行する場合は、[Y]を選択してから、Ⓒ を押してください。



6.5. パスワードのリセット

Ⓢ を押して、「Reset Password」メニューを表示します。

ここで Ⓒ を押すと、「Reset Password」が選択されたことになり、本当にパスワードをリセットしてよいか確認画面が表示されます。

パスワードをリセットする場合は、[Y]を選択して、Ⓒ を押して決定してください。

リセット後の管理者(admin)のパスワードは、admin になります。

株式会社ムービット
http://www.mubit.co.jp/
TEL 03-5390-3553
FAX 03-5390-3650